

編者から読者へ

子供たちに動物の息吹を伝えたい

高槻成紀

小原芳明監修・高槻成紀編・浅野文彦絵
動物のくらし

玉川百科 こども博物誌



A4判・160頁・4800円
玉川大学出版部
978-4-472-05971-1
TEL. 042-739-8935

性、生息地利用、移動、育児などである。それから、その現象を紹介するのにふさわしい動物を選ぶという順序である。たとえば食性であれば草食と肉食ということがある。その違いを比較するためにシカとタヌキを選んだ。そうすればカモシカやキツネを紹介しなくても理解されるはずだと考えた。要するにたくさん動物種を羅列的に取り上げるのではなく、ある現象を解説するのにふさわしい動物をとりあげ、丁寧に記述することにしたのである。そしてそういうことが書ける著者を探した。

つこのことを希望した。ひとつは動物園的な図鑑ではなく、動物の生き方を伝えるものにする。もうひとつはそのことを表現できるすぐれた画家を選ぶということである。そこで、次のような順序で動物を選ぶことにした。まず、現象をとりあげることである。たとえば、動物学的にいえば生活

性のある記述をした。「春の森のなか。木の葉をとりぬけたやわらかな光がふりそいで、下草にまで光があふれている。」という書き出しに続けて森の情景を描き、「森にシカのメスがあらわれた。ゆっくりすすんでは鼻でクンクンとおいをかいで草をたべる。」と続けた。そしてそのイメージを描いてイラストレータの浅野文彦氏に送ると、まったく違うすばらしいものが届いた。そのときも驚いたが、最終段階ではこれに彩色され、文字通り命が吹き込まれたとき、本当に驚き、うれしかった。

こうして哺乳類だけでなく、鳥類、爬虫類、両生類、魚類について動物の息吹が伝わるような作品群ができた。著者たちは長年自分が観察してきた動物に愛情を注いだ文章を書いてくれ、その熱意とイラストレーターの才能がすばらしくかみあった作品になった。おかげで、できあがった本は子供だけでなく大人にも感動してもらえなものになった。(たかつき・せいき氏 哺乳類学者・生態学者)



↑高槻のラフ画をもとに、浅野氏が描いたシカ↓

子供の動物の本といえは凶鑑が思い浮かぶ。たくさん動物がずらりと並んでおり、名前を確認することで「動物を知る」ようにできてくる。だが、これは名前を覚えるのにはよいが、動物の生活を「知る」ことにはならず、その魅力にあうことにもならない。虫とりや魚とりをする子供たちは、あの川のあるところに行けばいる、あの林の縁に行